第 3 期

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

事業報告書

一般社団法人ドナーリンク・ジャパン
Donor Link Japan

（Ⅰ）役員　（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

代表理事	仙波　由加里
理事	久慈　直昭
理事	石塚　幸子
監査	仙波　哲夫
会計	森　和子

（Ⅱ）登録会員数

(1)　正会員（社員）	10 名
(2) 一般会員（当事者会員）	9 名
(3) 賛助会員(個人)	31 名
(4) 賛助会員（団体）	4 団体
(5) サポート会員	8 名
＊リーガルアドバイザー	2 名
＊ボランティア 1 名	

（Ⅲ）業務契約

- 株式会社 OVUS　（DNA マーカーリンク検査委託）　（2022 年 12 月～現在に至る）
- プロボノ組織「みんなのさいわい」　（資金調達支援）（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

（Ⅵ）実施事業・活動報告

2025 年度は次のような事業を展開した。

(1) ドナーリンクの実施

- 登録希望者への事務面談・心理面談を実施
- DNA マーカーリンク検査のために、株式会社 OVUS に唾液サンプルを送付し、結果についてはデータ管理
- 2025 年度においては、新規登録は、AID 出生 1 名
- 現在のところ、マッチングのケースはなし
- 当事者からの問い合わせに対応

(2) 書籍出版プロジェクト

『私は何者かを知りたい』（晃洋書房）を 7 月 10 日に出版

2023 年 2 月に実施したクラウドファンディングで得た支援金をもとに、7 月 10 日に晃洋書房から**『私は何者かを知りたい－匿名の精子提供を生きる』**を出版。

定価：2750 円(税込)

晃洋書房 https://www.koyoshobo.c o.jp/book/b662386.html

初版 2500 部。初版が売り切れるまで印税はなし

この出版を記念して 7 月 19 日に出版記念イベントを開催

メディアにも多く取り上げられる

- 8 月 9 日（土）TBS ラジオ 「まとめて！土曜日」内の「人権 TODAY」のコーナー（午前 8 時 22 分頃）（書評）
- 8 月２３日東洋経済（渡部沙織著）
- 図書新聞（9 月 20 日号　上智大学新田あゆみ先生）
- 助産雑誌（vol.79 書籍紹介欄）
- 書評：『読書人』(3610 号　二階堂祐子先生　2025 年 10 月 16 日）
- ふぇみん（10 月 25 日号）
- 週刊読書人（3610 号）(10 月 16 日）
- THE SHAKAI SHIMPO (5338 号）(8 月 7 日）

(3) DNA マーカーリンク検査の精度を上げるための研究

（偽陰性・擬陽性を減らすために）

- DLJ 担当　　倉橋、久慈、仙波哲（データ管理)、仙波由（事務局）
  OVUS 担当者　　吉田、検査担当（責任者)・芦川
- 2025 年 10 月 20 日/2026 年 1 月 19 日、打ち合わせ
- 追加検査（リンク後に行うもの、半同胞のサンプルも含む）OVUS にて実施
- SNP マイクロアレイ　1 測定：12 万円 x 5 人（擬陽性の 2 人と同じ父親から生まれた異母きょうだい 3 人の検査）
- 課題となっていた点
  金額の問題/唾液量の問題（1 次検査で唾液をどのくらい使い、次の検査に必要な分が残るのか）
- 現在も検査は継続中
- 12 月に「ドナーリンクのための DNA マーカーリンク検査のあらたな検査法の開発」のための資金獲得を求めて、Soil x MUFG 助成金申請をするが不採択

(4) イベント開催

① 2025 年 6 月 24 日（火）

第 3 回目　特定生殖補助医療にかかわる問題の勉強会シリーズ
親族・友人からの提供を捉え直す

形式：オンライン無料開催
報告者：久慈直昭
申し込み者数：48 名の申し込み、当日 31 名参加
開催後 1 週間、オンディマンドの視聴も可とした

② 2025 年 7 月 19 日（土）

『私は何者かを知りたい』出版記念イベント

形式：対面開催
開催場所：明治学院大学
参加者数：65 名
メディア関係者も 11 名参加、報道もされる

③ 2025 年 8 月 20 日（水）

第 4 回目　特定生殖補助医療にかかわる問題の勉強会シリーズ
そのパンドラの箱を開けたらもう閉じることができない
人工授精詐欺発覚後の家族関係に関する質的研究

形式：オンライン無料開催
報告者：由井秀樹
申し込み者数：61 名申し込み　当日 32 名出席
開催後 1 週間、オンディマンドの視聴も可とした

④ 2025 年 9 月 26 日（金）

オーストラリアの特定生殖補助医療―歴史・倫理・法・規制
（森村豊明会助成金による開催）

形式：オンライン開催
報告者：Ian Smith（オーストラリアの研究者および精子提供者）
司会・進行：仙波由加里
申し込み者数：39 名
開催後 1 週間、オンディマンドの視聴も可とした

⑤　2025 年 12 月 13 日（土）

提供精子で生まれるという経験―アイデンティティ、人間関係、安らぎを取り戻す（森村豊明会助成金による開催）

形式：オンライン開催

報告者：Lynne W. Spencer（アメリカの看護師・カウンセラー、および AID 出生者）

司会・進行：仙波由加里

申し込み者数：40 名

開催後 1 週間、オンディマンドの視聴も可とした

⑥　2026 年 1 月 15 日（木）

生殖の軌跡：デジタル時代における生殖補助医療から子を持たない生き方まで（森村豊明会助成金による開催）

形式：オンライン開催

報告者：Giselle Newton（オーストラリアの社会学者、および AID 出生者）

司会・進行：仙波由加里

申し込み者数：41 名

開催後 1 週間、オンディマンドの視聴も可とした

【イベントの広報に使われたチラシ】

(5) 心理・社会福祉支援チームが三菱財団の助成金を使ってハンドブックを作成

タイトル：ドナーリンクのためのハンドブック

『ドナーリンクを希望する人たちの心と福祉を支援する』

A5 サイズ 178 頁（白黒 150/カラー30 頁ほど） x 150 部

5 月末完成予定

初版は無償で関係者・希望者に配布

(6) 資金調達のための活動（助成金申請）

- セーブ・ザ・チルドレン 子ども・地域おうえんファンド第 4 回公募（主催：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）(9/7 締切)
  「提供型生殖補助医療（AID）で生まれた子供達が、「自分の出自を知る」権利が確立され、それを望むときに行使できるような法整備と、家族やドナー（提供者）も含めた支援体制を確立する」というテーマで応募
  ⇒不採択
- 日本ソーシャル・スタートアップ Award（主催：日本フィランソロピック財団）(9/30 締切)
  「提供型生殖補助医療（AID）で生まれた子供達が、「自分の出自を知る」権利が確立され、それを望むときに行使できるような法整備と、家族やドナー（提供者）も含めた支援体制を確立する」というテーマで応募
  ⇒　不採択
- 【Soil x MUFG】新プログラム「儲からないけれど、意義がある」(12/10 締切)
  「ドナーリンクのための DNA マーカーリンク検査のあらたな検査法の開発」というテーマで応募
  ⇒　不採択
- システムチェンジ応援ファンド　一般社団法人 Mindful が母体　災害レジリエンスの向上や市民社旗の強化に向けて、構造的・制度的な改革（システムチェンジ）を促進するプロジェクト。(12/12 締切)
  「多様な家族のかたちを受容する社会をめざすための試み―子どもたちの意識の変化から社会を変える」というテーマで応募
  ⇒　不採択
- Soil x Policy Fund（政策提言）(12/14 締切)
  「精子提供（AID）で生まれた人たちの出自を知る権利が保障される社会をめざすプロジェクト」というテーマで応募
  ⇒　不採択

- 【八洋】ボランティア・ベンダー協会　寄付型ベンディングマシーン　説明を聞いた　2026 年度契約・実施予定

(7) 理事会の開催

- 重要事項（契約関係や助成金申請、資金調達、家賃などの経費等の問題など）について、オンラインで、理事 3 名が検討。
  開催日：2025 年 5 月 8 日、2025 年 9 月 7 日、2026 年 3 月 31 日

(8) DLJ メンバー月例会議の開催

2024 年 4 月から 2025 年 3 月にかけて、月 1 回のペース（第 2 火曜日 19：30 より）で、オンラインで月例会議を実施。重要事項についての確認、報告、及び決定の必要なことについてメンバー全員で検討する。
開催日：2025 年 4 月 8 日、5 月 13 日（社員総会）、6 月 10 日、7 月 8 日、9 月 9 日、
10 月 14 日、11 月 11 日、12 月 9 日、
2026 年 1 月 13 日、2 月 10 日、3 月 11 日

(9) ニューズレターの発行

会員に向けて、2025 年 4 月から 2026 年 3 月末までに、ニューズレターを計 12 回（第 26 号から第 37 号まで）発行（NL 担当：石塚）

(10) 2025 年 2 月 5 日に特定生殖補助医療法案が国会に提出されたことを受けてのロビー活動を展開

- スタッフ内での法案に関する勉強会なども開催
- 5 月 13 日記者会見（仙波）参加
  議連に向けて質問の回答を求めて、公開質問状を他組織と一緒に提出。出自を知る権利について、様々な人たちから集めた質問をまとめ、提示した。⇒5 月 28 日までに回答の提出をお願いしていたが、結局は回答ないまま、6 月に廃案に。
  詳細は、医療記者の岩永直子のニュースレター参照
  https://naokoiwanaga.theletter.jp/posts/c4e3e8a0-2fb7-11f0-a50b-73c5b9e0f297

(11)　メディア（新聞・雑誌掲載）

- 2025 年 4 月 10 日　毎日新聞：「出自を知る」保障を　生殖補助医療、法案修正を求めイベント 2025 年 5 月号　雑誌『世界』　石塚幸子：特定生殖補助医療法案と「出自を知る権利」
- 2025 年 4 月 11 日　DIAMOND Online: 後編　国際ジャーナリスト　大野和基：私のお父さんは誰？慶大病院「精子提供」で生まれた人が訴える切実な理由（2024 年 2 月 11 日のリレートークでの当事者発言が掲載されている）
- 2025 年 4 月 15 日　*Japan Times*: Privacy and transparency clash in debate over bill on artificial insemination
- 2025 年 4 月 29 日　日本経済新聞　不妊治療巡り新法案『出自を知る権利』多面的に議論を（柘植コメント）
- 2025 年 5 月「特定生殖医療法案と『出自を知る権利』」『世界』5 月号、岩波新書, pp.124-127.（石塚）
- 2025 年 5 月 25 日 ふぇみん「生まれた人、親になる人、提供者」を尊厳ある人として（柘植）
- 2025 年 6 月 27 日　朝日新聞「（私の視点）不妊治療のルール法制化　出自を知る権利、声に応えて（石塚）
- 2026 年 1 月 21 日　報導社（台湾のメディア）（石塚）https://www.twreporter.org/topics/taiwan-donor-conceived-people-right-to-know-their-origins
- 2026 年 2 月 7 日　日本経済新聞出版社（仙波、石塚）
- 2026 年 2 月　共同通信（仙波）（徳島新聞 3/3、日本海新聞 2/22、中国新聞 2/26、秋田さきがけ 3/3、岩手日報 2/26、南日本新聞 3/15、東奥日報 3/13、神戸新聞 3/5）他
- 2026 年 2 月 16 日 FM 富士　社会問題を取り扱うコーナーで「人工授精　生まれた子供の権利」について話した（仙波）

(12)　メンバーの学術学会・学術シンポジウム、市民団体の講座等での報告

- 2025 年 6 月 7 日「生殖技術は「女」に何をもたらしたか／何をもたらさなかったか」　日本女性学会 2025 年次大会　立教大学　（柘植）
- 2025 年 7 月 6 日（日）河合塾文化講演会（大阪　東大・京大・医進館にて・石塚）
- 2025 年 7 月 6 日（日）JPC 研究会年次大会　オンライン　講演（久慈）
- 2025 年 11 月 17 日（日）日本子ども虐待防止学会シンポジウム「ライフストーリーワークのめざすものは何か―実施のための心得 5 か条―」企画・発表（才村）

- 2026 年 1 月 26 日（月）川崎市民アカデミー　市民講座「特定生殖補助医療と出自を知る権利」（仙波）
- 2026 年 1 月 31 日（土）全国家庭養育推進ネットワーク主催　FLEC フォーラム分科会「ライフストーリーワークと特別養子縁組成立後の支援」（才村）
- 2026 年 2 月 1 日（日）　日産婦主催シンポジウム『特定生殖補助医療に関する公開講座 ～出自を知る権利を巡って～』、（久慈、石塚、仙波）
- 2026 年 2 月 28 日（土）第４０回東京母性衛生学会セミナー「多様な家族を支えるための法と対話」（髙橋）
- 2026 年 3 月 6-7 日　小児遺伝学会年次大会　大会長（倉橋）　シンポジウム（石塚）
- 2026 年 3 月 27 日（金）Sociology Dept. at National Taiwan University「Critical Issues Regarding Japan’s 2025 Donor Conception Bill」報告（仙波）
- 2026 年 3 月 28 日（土）台北にある Fembooks Publishing House & Bookstore (女書店：フェミニズム関連の書籍を専門とする書店)で『私は何者かを知りたい』についてブックトーク（仙波）
- 日本産科婦人科学会の「特定生殖補助 医療に関する運用検討小委員会」に議長として久慈直昭、委員として才村眞理、石塚幸子、仙波由加里が参加。

(13)　メンバーの公表された学術論文や執筆物

- 仙波由加里 2025「子の出自を知る権利の保障に向けて―ドナーリンク・ジャパンのチャレンジ」『ジェンダー法研究』12 号, pp47-56.
- 仙波由加里 2025「「出自を知る権利」とは―AID で生まれた人の視点から―」『家族研究年報』No.50, pp.7-18.
- 柘植あづみ 2026「子どもを望む人のために卵子提供した理由の考察―インタビュー調査結果の検討から―」『社会学・社会福祉学研究』明治学院大学,（2 月発行）166:85-111.
- 柘植あづみ　2026「生殖技術は「女」に何をもたらしたか／何をもたらさなかったか」『女性学』33: 19-33.　日本女性学会（3 月発行）
- 由井秀樹, 武藤香織, 八代嘉美, 渡部沙織, 木矢幸孝, 山縣然太朗　2026「ヒト胚研究に対する再生医療研究者への意識調査ーー培養可能期間についてのルールをどう設定するか」再生医療 25(1): 32-37 (1 月発行)

(14)　その他

- 2025 年 7 月　みんなのさいわいプロボノだった東原里美さんがボランティアとして

DLJ に加わる。主に SNS を使った広報などを手伝ってもらう

- 2025 年 11 月、DLJ の宣伝のためのチラシを新たに作成（東原さんがデザイン）

（V）今後の課題

2026 年度も、スタッフ全員がそれぞれの役割を遂行し、大きな問題が起こることはなかった。しかし、今後も安定した DLJ の運営のために、資金調達と、あらたなスタッフのリクルートが今後の大きな課題といえる。

そこで今後以下のような課題解決に向けて考えていく必要がある。

① 2026 年度も引き続き、助成金の獲得。⇒助成金募集の情報をリサーチ収集
② 登録数が増えていない。（会費の納入をしてくれない）⇒宣伝の強化
③ イベントはこれまで海外講師を招くことが多かったが、資金調達が不十分なことや海外の講師は円安の影響もあり講師料が高く、通訳料もかかることから、2026 年度は国内の講師を中心としたイベントを企画する予定　⇒イベント企画を見直す
④ オフィスは次の契約更新まで、仙波哲夫氏の寄付金で賄うことになった。次の契約更新は 8 月までにリージャスに連絡する必要があり　⇒メンバーと一緒に引き続き検討
⑤ 昨年度に引き続き、当事者会員、特にドナーだった人の登録がないことが問題である。しかしドナーだったという人からの問い合わせは数件あり。登録はされなかった。ドナーの登録を増やすためにはどうしたらいいのか検討する必要がある。

以　上